

グループホームさっちゃん家 2016年度 総括

はじめに

グループホームさっちゃん家が開設され12年が経ち建物も老朽化され建て替えを予定していません。年度途中には突然な所長、管理者、ケアマネの変更があり職員間に動揺はあったものの入居者様には大きな混乱を招くことなくその人らしく生活を送っていただく事ができました。また職員体制の問題もあり、個別支援、職員への外部研修への参加への取り組みが思うようにできませんでした。

I 「地域から圧倒的に選ばれる事業所」を目指して

1) 自立支援が行えるさっちゃん家

昔、畑仕事をされていたと言う方へいつまでも継続できるよう地域を交え 一緒に時期の苗を植え、旬の食材として取り入れました。

歩行器を使用されていた方が入院となり車椅子移動となってしまいました。本人の意欲が出るよう声かけをし歩行を取り入れ生活リハビリをおこない結果以前のように歩行が出来るようになりました。一年個別支援に取り組んでいましたが、不十分に感じた部分がありました。

2) 家庭的で地域に開かれたさっちゃん家

地域の方々が家で収穫された旬の物を持って来てくださり、珍しい野菜の時には、「絵を描いたらええがん」と声をかけてくださいます。

3) さっちゃん家の広報に取り組みます。

さっちゃん家通信を年に4回発行し、家族、地域に配布しています。

ホームページでは、ブログ更新等充実できていません。新たにフェイスブックを開始しましたが、日々の更新ができず反省が残ります。

II 「学び、考え、実践する」職員を育成し、働きがいのある職場づくりを目指して

法人内研修へは、一人一回以上の参加ができました。外部研修へは、3名の方が参加できたが〔認知症介護実践リーダー研修など〕全職員の達成は出来ませんでした。外部研修への参加を希望されるスタッフもいるが、勤務の調整が困難でした。年2回の面談は未実施でした。職員間でのコミュニケーションは日常におこなえています。職場会議での参加は職員体制の問題もあり、いつも決まったメンバーの参加になっています。参加できない職員には資料を配布し情報共有に努めています。カンファレンスは全員が参加できています。

III 利用者の生活を守り、職員の暮らしを支える事業所運営を確立するために

事業経営は中々把握できていなかったが黒字継続を維持する為、食材の外部配達を減らし買い物へ出かけました。野菜は畑の物を使用し、食費減少に努めました。法人で取り組んだチャレンジウィークでは、自給自足賞を頂き、励みになりました。買い物へ出かける事で個別支援にも繋がりました。今年度は1名の離職者がありましたが、スタッフ一同戸惑いもなく入居様への対応「その人が、その人らしく」という支援を大切にできました。グループホーム建替えに向けては、不用品破棄な

ど環境整備に努めました。

入居者の体調管理に関しては日常的に利用者の小さな変化にも気付き医療との連携を密にできていた為、入院となっても短期入院ですむことが多かったです。インフルエンザ 2 名あり、大きな感染にはなりませんでしたが隔離が出来ず、感染時の対応の難しさを感じました。29 年 1 月末 2 名の退居者がありました。待機者への確認をしましたが、三年以上の待機者については、他施設へ入所されている状況でした。待機者 20 人越えという安心感があり焦りはなかったのですが、いざ入居する方がいないという状況になり焦り、他事業所との連携の必要性を感じました。

IV 事業所が地域福祉の拠点となって「友の会」と地域住民との協力協同を実現します。

地域サロンへは毎月参加できていますが、特定の入居者に限られてきています。お花見サロン時には、入居者全員が参加でき、地域の方との交流が図れました。さっちゃん家祭りでは、職員、地域の方合同でスーパーボールすくいを取り入れ沢山の子供達が参加してくれました。事前に、学童保育へチラシを配り、広報したことで、子供達との輪が広がりました。中学生のボランティアも 1 名参加がありました。

地域訪問へは 2 名の職員が参加し、何軒かはお話をする事ができました。中には、「サロンでみたことあるよ」と声をかけて下さり、びっくりした反面とても嬉しく地域との交流の大切さを感じた。

VI 利用者、職員、地域住人のいのちと安全を守るために

年に 2 回の健康診断の結果で 精密検査が必要な職員への声かけを行い、本来拒否的だった受診に結びつき健康維持につながりました。危険箇所については、環境委員会が中心となり実施しており、災害時の備蓄品を定期的な管理を行い常に新しい物を確保しています。年に 2 回の避難訓練を実施。地域を巻き込んで行っているが非常災害対策が不十分でした。

VII 民医連を通じて社会保障、福祉諸制度の動向にアンテナを高く掲げます

民医連新聞の活用が不十分、研修にも参加できていません。街頭署名活動には 1 名が参加しました。

グループホームさっちゃん家 2017年度 方針

はじめに

昨年は2名の方の退居者と共に2名の入居者を受け入れました。その方を含め残存機能を見極め維持できるよう生活の中でのリハビリを強化し支援していきたいです。また、地域との交流が同じ入居者に偏っている為、物足りなさを感じています。家族からの思いを含め個別支援を活発に取り組みます。

I 地域から圧倒的に選ばれる事業所について

- 1) 利用者の残存機能を維持、向上する為生活リハビリの強化に取り組みます。
- 2) その方に応じた個別支援への取り組みを行います。

II 「学び・考え・実践する」職員を育成し働き甲斐のある「本音で語れる職場づくり」を目指して

- 1) 法人内研修、外部研修へ参加します。
- 2) 職員全員で新人研修を行い質の向上を目指します。

III 「利用者の生活を守り、職員のくらしを支える」事業所経営を確立するために

- 1) 体調管理を行い、体調不良者や入院者減少に努めます。
- 2) 職員の体調管理を行うにあたって、健康診断及び班会（バトミントン）で運動を心がけます。
- 3) 建て替え準備に取り組みます。

IV 事業所が地域福祉の拠点となって『友の会』と地域住民との協力協同を実現します。

- 1) 地域の一員として、地域の行事へ各職員が参加し関係作りを行います。
- 2) グループホーム建て替えを友の会に支えて頂く為に仲間集めの呼びかけを率先して行います。

V 利用者・職員・地域住民のいのちと安全を守るために事業所の使命

- 1) 定期的な危険箇所点検を行います。
- 2) 非常災害時に関する計画を整備し避難訓練を実施します。

VI 民医連活動を通じて社会の動きや社会保障・福祉諸制度の動向にアンテナを高く上げます

- 1) 署名活動を積極的に協力をします。
- 2) 民医連新聞を活用し、社会保障、福祉制度の動向の把握に努めます。

VII 社会福祉法人制度改革への対応と地域貢献活動への取り組み

- 1) 地域訪問兼ねて署名活動を行います。

さっちゃん家デイサービスセンター 2016年度 総括

平成 28 年 4 月より地域密着型通所介護となり、より一層地域との関わりが重要となった。しかし、以前より地域を身近に感じる事業所であった為、大きな混乱はない。今年度も利用希望者を積極的に受け入れ、認知症者増加となったが、同時に利用者間のトラブルも増加している。そのため、ご利用者が落ち着いて過ごせる雰囲気づくりを重点的に取り組んだ。また、どんな方でも共にできるレクの一つとして、楽しみながらの体力づくりを定例とすることが出来た。年度下半期に入り、利用中止者増加の為利用実績は低下したが、現在はやや持ち直している。

I 「地域から圧倒的に選ばれる」事業所について

1) 利用者、家族の要望把握に努め、必要とされる事業所を目指します

送迎時、ご利用者、ご家族の要望を聞き取りしている。入浴はご本人の本音をきける機会なのでゆっくり時間設定し、その都度、相談員へ報告するなど情報共有している。2月にご本人、ご家族対象アンケートを実施した。「楽しんで行っている」など好意的な意見が多いが、行事には馴染めないと率直な意見も聞けることができた。やはり、少数であるが延長デイ、お泊りデイの要望もあった。3月にご家族、地域住民対象に感謝のつどい開催予定。

2) 利用者の生活実態に応じた自立支援に努めます

自立支援においては現在ご自分できる事は可能な限り、ご自分で行って頂いている。以前は職員と共に洗濯物干しを実施していたが、「自分でしたい」と言われ、現在では完全にご利用者の役割となっている。今年も、馴染めないといった理由で他事業所利用が難しくなった方の受け入れを実施し、利用へつなげることが出来た。帰宅願望が強い方へも家事手伝い等その方が好きなことを中心に多種多様の支援を行い、皆さんと共に過ごし、落ち着くことが出来ている。

3) リハビリ資料、連絡帳の整備を行います

今年度は情報誌を活用し、多種の体操（ピラティスなど）を提供したが、資料整備までは至っていない。以前より、昼食前には体操の時間を設定していたが、現在は加えて、朝の健康チェック後に体操・運動を実施している。ご利用者の中には自ら場のセッティングをされる方もおられる程定着している。また、ペダル漕ぎ器を導入し、各利用者に喜ばれている。日々の連絡帳記入に時間がかかっていたので、様式を変更、印鑑作成し対応。内容は変えず、効率化を目指した。

4) 全職員によるモニタリングを実施し利用者支援の向上に努めます

モニタリングは全職員で実施予定であったが、カンファレンスの内容で相談員のみの実施となった。しかし、新人職員採用に伴い、職員で通所介護計画の再確認を実施。加えてご家族の要望も再共有した。

II 「学び、考え、実践する」職員を育成し、働きがいのある「本音で語れる職場づくり」を目指して外部研修参加 1 人 2 回以上の目標達成した職員もいるが、全職員の達成は出来ず。各職員、研修に参加

しており、自ら勉強したいと希望する職員も多い。各自勉強した内容は、会議にて共有している。面談1人2回以上実施も未達成。職員間のコミュニケーションは活発に行えている。法人内の評価委員会チェックシートは全職員で取り組み、法人、事業所の理念・方針を再確認することが出来た。

Ⅲ介護保険制度の改悪に負けない「利用者の生活を守り、職員の暮らしを支える」事業所運営を確立するために

今年度は下半期より複数回ご利用の方の入院、入所が続き、その後の新規打診がなく安定した経営とはいえなかった。ケアマネより「さっちゃん家は空いていない」というイメージがあるとのことで空き状況の広報不足だった。インフルエンザ患者も2名あり。2名とも、日々のうがい手洗いを拒否される方であったので、予防の余地があったのではと反省が残る。新たな広報活動としてフェイスブックを始め、更新している。しかし、閲覧者は少なく、広報に繋がっていない。また、継続した更新ができず反省点である。利用曜日以外の独居利用者への見守り活動を目標にしていたが、定期的な見守りできず、送迎時、日中独居の方の自宅前を走行するなど、見守り活動を実施した。年度途中までは利用追加の受け入れが困難であるほど、登録者がいたため、要望があった際、対応できないこともあった。人員体制上、定員増員は慎重に判断しなければならないが、今後の課題である。デイとして建てかえ準備に携わる事はなかったが、日々の費用削減のため、買いものなどに出かけている。買い物へ出かけるようになり、食費削減に繋がっている。今年度も職員の離職なく、利用者の混乱を招くことがなかった。

(新規 9名、中止者 12名 H29.3.16)

Ⅳ事業所が地域福祉の拠点となって「友の会」と地域住民との協力協同を実現します

さっちゃん家として毎月の地域サロンへ参加。曜日固定であるので、お誘いする人が限定的となっているため、来年度は幅広く声をかけていきたい。また、友の会班活動を積極的に実施し、事業所が地域住民の交流の場となっている。さっちゃん家園芸班は月一度の開催が定例となり、実施できている。事業所は草抜きや整備がこの機会にでき、地域住民は園芸の知識が増えるなど、両者が大きな負担になることなく良い関係性が築けている。参加職員が固定的になっているため、来年度は各職員での参加を目指したい。今年度から、地域運営推進会議をGHと共に実施している。利用者の参加はできているが家族の参加が出来ておらず。来年度の課題となっている。全職員の地域訪問活動への参加は今年度、達成できず、課題が残った。

Ⅴ利用者、職員、地域住民のいのちと安全を守るための事業所の使命

事業所内の安全点検、整備は環境委員会が中心となって実施しており、庭の穴埋めや浄化槽の定期的清掃や家具の交換などを行った。避難訓練も地域を巻き込んで行っているが、非災害対策が不十分。今後の課題となっている。

Ⅵ民医連活動を通じて社会の動きや社会保障、福祉諸制度の動向にアンテナを高く掲げます

民医連新聞の活用が不十分。事務所内に民医連活動の掲示をして居るが周知にいたっておらず。研修には参加し、署名活動も参加している。

さっちゃん家デイサービスセンター2017年度方針

平成 29 年 4 月より岡山市も総合事業が開始し、生活支援通所サービスが始まる。自立や軽度者への支援がすすめられている中、以前よりニーズのある認知症者への支援を大切にしながら、認知症者も軽度の方も共に混乱なく過ごせるような環境づくりを目指したい。また、事業所と地域の方との交流を活発に行い、気軽に集う事ができる場所にしていきたい。今年度も以前より取り組んでいる楽しみながらの「体力づくり」を継続したい。

I 「地域から圧倒的に選ばれる」事業所について

- 1) 利用者の生活実態に応じた自立支援を実施します。
- 2) 畑や園芸活動を室内で実施し、活動に広がりを持ちます。
- 3) ニーズがある買い物支援を実施します。
- 4) 利用者、家族との多様な交流の機会をもうけます。
- 5) ニーズに合わせ、生活支援通所サービス検討します。

II 「学び、考え、実践する」職員を育成し、働きがいのある「本音で語れる職場づくり」を目指して

- 1) 外部研修 1 人 2 回以上参加します。
- 2) 他事業所見学をおこない利用者支援に繋がります。
- 3) 事業所内委員会 3 ヶ月に 1 回実施します。
- 4) 運営推進会議へ各職員が積極的に参加します。

III 介護保険制度の改悪に負けない「利用者の生活を守り、職員の暮らしを支える」事業所運営を確立するために

- 1) 体調管理をこまめに行い、体調不良者や入院者減少に努めます。
- 2) 資格試験に挑戦し、加算取得を目指します。
- 3) グループホームの建てかえ準備に取り組みます。

IV 事業所が地域福祉の拠点となって「友の会」と地域住民との協力協同を実現します

- 1) 地域の行事、活動へ各職員が積極的に参加し、関係作りをすすめます。
- 2) 友の会の広報活動を積極的に行い、友の会と利用者、地域住民の橋渡しを行います。

V 利用者、職員、地域住民のいのちと安全を守るための事業所の使命

- 1) 定期的な危険箇所点検を行います。
- 2) 非常災害時に関する計画を整備し、避難訓練を実施します。

VI 民医連活動を通じて社会の動きや社会保障、福祉諸制度の動向にアンテナを高く掲げます

- 1) 署名活動への協力をします。
- 2) 民医連新聞を活用し、社会の動きの把握に努めます。

VII 社会福祉法人制度改革への対応と地域貢献活動への取り組み

- 1) 地域の緑化活動を積極的に行います。
- 2) 利用曜日以外の独居利用者への見守り活動を実施します。